

第3章 基本方針

1 目指す姿

千葉県総合計画では、「～千葉の未来をともに創る～ 県民を守り、支え、そして飛躍する千葉の実現」を基本理念に掲げ、おおむね10年後を見据えて本県が目指す姿を示しています。

本計画では、この目指す姿の実現に向け、各種施策を展開し、農林漁業者の所得向上と地域資源を活用した農山漁村の活性化を図ります。

- 本県の農林水産業をけん引する人材が活躍し、稼げる産業として確立されるとともに、働きやすい環境が整えられることで、農林水産業を魅力ある職業として選ぶ若者が増え、世代間のバランスが取れた就業構造となっている。
- 外国人材の活用や農福連携などが進み、労働力が確保されるとともに、経営体の規模拡大や法人化、営農組織の育成、企業の農業参入等が進み、多様な担い手の確保・育成・定着が図られている。
- 将来の具体的な農地利用の姿について地域の合意形成が図られ、担い手への農地の集積・集約化と持続的な農地管理が行われている。
- 先端技術を導入した「スマート農林水産業」により、更なる生産性の向上が図られるとともに、環境に配慮した生産活動や海洋環境の変化も踏まえた水産資源の適切な管理等により、持続性を確保しつつ成長産業として発展している。
- 農林水産物の生産・流通・販売において、加工や鮮度保持などによる高付加価値化やICTの活用による効率化が進み、マーケットニーズの多様化に対応できる供給体制が構築されるとともに、効果的なプロモーションなどにより、国内外で販路が拡大している。
- 本県において「漁業」に関する文化が広く認知されるとともに、千葉の魅力を生かした「農山漁村と食」の文化が創出され、国内外で本県の農林水産物が好んで選ばれている。
- 6次産業化や海業の推進といった地域資源を活用した取組や関係人口など多様な人材の活躍により、農山漁村が活性化し、国土や自然環境の保全、文化の伝承などに欠かせない存在となっている。
- 様々な災害に対する防災基盤等の整備や家畜伝染病等の対策の徹底、事業継続計画（BCP）の策定、セーフティネットへの加入など、リスクへの事前の備えが進むとともに、災害に対する情報収集や復旧への取組など、迅速かつ的確な危機管理体制を構築している。

第3章 基本方針

2 基本目標

稼げる農林水産業の実現と農山漁村の活性化

令和11年(2029年)までの数値目標を定め、農林漁業者の所得向上を図ります。

数
値
目
標

農業産出額

4,079億円
(令和4～6年平均)



4,200
億円

県内漁港水揚げ金額

450億円
(令和2～4年平均)



450
億円

農業・漁業生産関連事業の年間販売金額

790億円
(令和元～5年平均)



860
億円

農業経営体当たりの生産農業所得

404万円
(令和2～6年平均)



520
万円

漁業経営体当たりの漁業所得

514万円
(令和元～5年平均)



540
万円